

「保健医療科学」
第 53 巻 第 4 号 予告

研究評価（仮題）

保健医療分野における研究評価のあり方（仮題）	林謙治
米国国立健康研究所（NIH）の研究評価制度と研究者の意見（仮題）	曾根智史
米国疾病管理予防センター（CDC）の研究評価制度（仮題）	緒方裕光
諸外国、国際機関における研究評価制度（英国，OECD，EU，WHO）（仮題）	伊藤弘人，西村秋生，緒方裕光
保健医療分野における主要国の研究成果の動向（仮題）	伊藤弘人
厚生労働科学研究費補助金による研究成果についての新聞報道調査（仮題）	小山秀夫
わが国の助成採択研究の追跡調査（仮題）	伊藤弘人

編 集 後 記

正直に言って、QOLという言葉に接する時、いつも戸惑いを感じていた。それを高めることが個人や集団の幸せにつながるという概念の存在理由の正しさとそれを具体的に表現する時の事象の曖昧さとのギャップがその原因である。QOLほど人によって意味する内容が異なる言葉もないのではないかと思っていた。また、尺度開発の部分も、ともすれば木を見て森を見ない、あるいは何を切るのかを忘れてひたすら包丁を研ぐような趣もあり、敬遠していた部分があった。

本号の特集「保健医療分野におけるQOL研究の現状」の各論文により、おそらく多くの人が抱いているであろう上記の思いがかなり解消されるのではないかと思われる。それは、各著者のQOLに関する確かな問題意識と実証的な態度による。保健医療にたずさわる人々が、その測定手法も含めて、一定の共通認識のもとにQOLを論じることができる日も近いのではないかと感じる。

（曾根智史）